「いのちの教育」庄内推進部会の取り組み

《平成19年度》

・　実践事例の開発・研究、関係資料の収集、「いのちのブック」（庄内担当ページ）の作成（下記）

庄内人の誇り ～公益の心～

この夏家族で海岸に遊びに行ったんだ。きれいな砂浜やどこまでも続く松林を見て、「庄内っていいところだな～」って思ったの。
でも、よく見ると茶色や白くなってはげている松の木があるのが気になったんだ。
「このクロマツ林をそだてるために、小中学生も協力しているんだよ！」と、お父さんが話をしてくれたの。もっと知りたくて、二人で調べてみることにしたよ！

松くい虫により、松が白骨化している

クロマツ林の復活に、「植栽」の力を深く感じる。庄内海岸防風林育成会長の方

昔も今も私たちの暮らしを守るクロマツ林を　次の世代に引き継ごう！

１７００年頃の庄内海岸は、戦国時代の戦いによる焼失や塩作りによる伐採などで樹木は少なくなり、砂地が広がっていったと伝えられています。この広がった砂地から砂が飛ぶようになり、田畑や川、そして家まで埋めてしまうことが何度もありました。

そこで、佐藤藤蔵や本間光丘ら庄内の先人たちは「みんなのために」と失敗を重ねながらも植林を進めました。それが代々受け継がれ、現在庄内海岸は日本有数の「クロマツの砂丘林」になりました。

しかし、近年松くい虫による被害が全国的に広がり、庄内の松も枯れているところがあります。

そんな中、地域の小学生から大学生、そして地域住民が一緒になり、松の植林と保全活動が毎年盛んに行われています。昔から私たちの暮らしを守ってきたこのクロマツ林を、次の世代に引き継いでいくことが大切だと思います。

先人たちの労苦に思いを馳せ、松林を守る小中学生

遊佐町立西遊佐小学校

校歌にも歌われている「緑の松」が、ある頃から赤茶色になり枯れ始めました。原因は、松くい虫でした。

その昔、藩城らが大変苦労して植林した松林を守ろうとの思いで、総合的な学習の時間で取り組むことになりました。地域の方々の協力で枝打ちや下草刈り・植林の活動を行い、学習林づくりや地校との交流の場づくりにも発展しました。

そして、これらの活動を学習発表会や地区公民館などで発表し、今後もみんなで松林を守る活動を続けようと呼びかけています。

校打ち　4年　後藤駿也

先生方が「今日は、校打ちをしてもらいます。」とおっしゃったとき、ぼくはわくわくしたよ。

そして、やってみるとなかなか大変だった。

「昔の人も苦労したのだろう。」と思った。

ぼくは大変でもがんばった。疲れたけど、切ったり楽しかった。

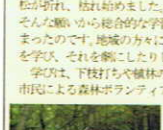
続けて見てみると、とてもきれいになった。少し寒いところから見たら、もっと美しいと思えた。たくさん枝打ちをしてくれたっけ。

松林とかかわりが深い学校がたくさんあったよ！お父さんの言ったとおりだ！

酒田市立十坂小学校

ある年、大雪で海岸線の多くの松が折れ、枯れ始めました。「きれいな林にもどしたい！」そんな願いから総合的な学習の時間「十坂のクロマツ」は始まったのです。地域の方々に体験を通してクロマツの大切さを学び、それを劇にしたりして広く発信しました。

学校は、下枝打ちや植林の作業へと発展し、それがやがて市民による森林ボランティアへと広がっていきました。



また、親子で森林に親しめるようにするために、学校の近くに「学習の森づくり」を整備しました。先人の労苦に終わらず、大いなる“文化遺産”を未来に引き継いでいくための活動が続けられています。

遊佐町立遊佐中学校
酒田市立第一中学校

中学校にも、先人たちの労苦に思いを馳せながら、松林と深く関わって活動している学校があります。

遊佐中学校では毎年３年生が、「インターンシップ in ゆざ」の一環として、クロマツ林での下草刈り作業に汗を流しています。また酒田市立第一中学校では毎年１年生が、“万里の松原”での枝打ちのボランティアに励んでいます。

若い世代も、庄内の誇りであるクロマツ林を守り、その歴史にしっかりと足跡を残しています。

苦労して砂丘を松林にした先人たち

生涯を世のため 人のために つくした「公益の鑑」　本間光丘

光丘は今から２３０年ほど前、酒田の豪商として全国に名をとどろかせた本間家三代目の当主です。

天災から酒田の地を守るために地道な努力を重ね、西浜砂防林植林事業を行いました。

光丘が植林した地区は、大正時代にその功績をたたえ、「光ヶ丘」と改称されて、現在も「光ヶ丘松林」として市民の憩いの場になっています。

「一本の松を切ったら三十本植えよ」 佐藤藤左衛門と藤蔵 親子

今から２６０年ほど前、酒田中町に酒屋をしていた佐藤藤左衛門という人がいました。みんなからは、あんな強い海風の吹く砂丘に木を植えることはむりだと反対されましたが、藤左衛門はたくさんのお金を使って苗木を植えました。しかし、はげしい風がきて何回も失敗しました。

父の遺言を受け継いだ藤蔵は、残り少なくなった田や畑を売って、苗木を植え続け、１７年後苗木はいっせいに芽をふきだしたのです。

藤蔵は藤崎村（遊佐町）に移り住み、「一本の松を切ったら三十本植えよ」と遺言を残し、８５歳でなくなりました。

庄内に生きた公益の偉人たち

「亀の尾」を生み出した大地　北橋大学利長（庄内町）

江戸時代、最上川のほとりで米作りに大変苦労していました。狩川城主であった北橋大学利長は最上川に合流する立谷沢川から堰を掘りあげ、水を引くことに成功しました。

庄内町を流れる北橋大堰は、庄内の荒地を美田へと変え、東北地方の有名品種の元祖「亀の尾」を生み出すことにつながりました。

今も北橋大堰の豊富な水は、庄内町の米作りに役立っています。

大飢饉からの救済　鈴木 今右衛門（鶴岡市）

江戸時代の天明大飢饉の時、今右衛門と妻は田畑・家財をすべて売り払い、よそからやってきた人にも分けすべてなく着物や食べ物を分けて救い始めました。

ある寒い日、今右衛門の娘は飢えた女の子に自分が着ていた綿入れを一枚脱いであげました。

鶴岡の人々は、今右衛門一家の姿を見て、自分たちも力の限り飢えた人たちを救おうとしました。

親子・地域ですすめる小牧川環境プロジェクト
～汚染度ワーストワンからホタルが生息できる川を目指して～
酒田市立松原小学校

松原小学校の４年生は、平成１４年度から小牧川をフィールドに総合的な学習の時間を展開してきました。山形県で最も汚れた川として報道されたことがある小牧川ですが、川底のコンクリートの隙間から微量の地下水が湧き出していたため、コイ、ボラ、ハゼなどの魚が見つかったことから浄化活動が始まりました。川沿いの草刈りはお父さんたち、歩道の掃除は子どもたちが行い、最後は一緒に“ざっこじめ”をして、小牧川とふれあいました。ホタルが住む小牧川を目指し、地域では「ほたると達える小牧川の会」が発足し、学校では５年生を中心に、中庭の池でホタルの飼育に取り組みました。

現在もその「公益の心」は、庄内に受け継がれているよ。

800年の歴史ある伝統芸能「酒川獅子舞と東堀越獅子踊り」を全校児童が学び受け継ぐ　鶴岡市立東栄小学校

東栄小学校がある旧藤島町東栄地区は出羽三山参道文化として栄え、また優れた伝統芸能「獅子踊り」が今も地域の人々によって大切に保存されています。

しかし、古くから伝えられてきたこうした貴重な地域文化も後継者不足の悩みを抱えていました。

こうした中、保存継承の機運が高まり、平成４年から東栄小学校の全校児童と保護者、そして、地域の指導者の手によって、２つの地区の獅子踊りを大切に受け継ぐ活動が始まりました。

庄内に生きた公益の偉人たち

庄内地方最初の橋　菅原美静・美継・美頼　親子三代（三川町）

明治６年（１８７３年）、美静は赤川に橋を架けて交通の利便を図るために、庄内地方最初の橋の完成を目指しました。

後を継いだ息子の美継は、橋を長くし修繕を加えました。

美継の息子の美頼は、古くなった橋を全面的に架けかえました。

菅原親子は三代にわたり、自分のお金をたくさん使い、『幾前橋』の建設のために努力したのです。

学校給食発祥の地　佐藤豊山（鶴岡市）

鶴岡市の私立忠愛小学校では、貧困のためお弁当を持ってこられない子どもがいました。

明治２２年（１８８９年）、常念寺の住職であった豊山は、無料で子どもたちに昼食を提供しました。これが、日本の給食の始まりとされ、今でも当時のメニューを再現し、給食に感謝する日があります。

忠愛小学校があった大督寺には、「学校給食発祥の地」の記念碑が建っています。

笑顔の輪を広げる中高生ボランティア活動
～三川町　来夢来人～

来夢来人は三川町の中高生でつくるボランティアサークルです。保育園を訪問して園児たちと遊んだり、町内のイベントのお手伝いをしたりしています。

「無理はしないで活動を楽しむこと、楽しいから続けられる。楽しいからみんなが笑顔です。」子どもたちと遊ぶメンバーのみなさんは輝いています。庄内５市町には２３のボランティアサークルがあり、多くの仲間たちが笑顔の輪を広げる活動をしています。

いろんな人が、それぞれの地域で、いろんな活動をしているんだね！

地域を元気にする東北公益文科大学のみなさん

東北公益文科大学４年　佐藤悠さん

故郷の仙台を離れ、酒田に来て３年半。公益学を学ぶことはもちろんですが、サークル活動を通して多くのことを学んできました。和太鼓サークルでの地域の祭り等での公演活動、病院でも公演し、島の方々から喜んでいただきました。他に障がいのある子ども達の水泳指導ボランティアや海浜青年の家指導員もしています。中越沖地震の時も仲間たちと一緒に現地に入り、炊き出しや物資運搬に汗を流しました。

私のモットーは「何事にも前向き！」好きな言葉は「和」。「公益」ってむずかしい言葉のようにも思うけど、やさしい気持ちを持って、心を配って、ちょっぴり視野を広くしていくことかなあって思っています。

地球にやさしいエコ活動を推進する
～庄内町の小中学生の取り組み～

風を電気に変える巨大風車が並ぶ庄内町は環境の町、ここの９つの小中学校では「省エネチャレンジ事業」に取り組んでいます。

これは子どもたちのアイディアを生かした節電活動に取り組むことを通して、環境教育と地球温暖化防止への意識化を図るものです。学習し、話し合い、具体的に実践することで、ほとんどの学校で前年度を下回るという節電目標を達成しました。

環境を優先して考えた地球にやさしい活動は、スケールの大きな「公益の心」です。

みんなが幸せになること　それが「公益」なんだ！
庄内が「公益の故郷」みんなで「公益の心」を受け継ごう！

私たちが住んでいる庄内は、クロマツの植林や保全だけでなく、昔からたくさんの人が「公益」にかかわり、その足跡がいろいろなところに残っていたよ。そして、今も庄内の各地域に『公益の心』は、受け継がれているんだね。

ぼくたちが仕合った人たちや先人たちは、みんないきいきと輝いていたね！ぼくたちの生まれたこの庄内が、これからもずっと笑顔いっぱいのすてきなところであるように、ぼくも夢や目標を持って生きたいなあ。

これから、「自分のためだけでなく、みんなのためにできること」を二人でさがしてみようよ！

ご協力ありがとうございました
・西遊佐小学校・十坂小学校・松原小学校・東栄小学校
・遊佐中学校・酒田第一中学校
・山形県庄内総合支庁
森林整備課、企画振興課
・東北公益文科大学
・三川町公民館
・公益教育研究会
・来夢来人
・庄内町教育委員会
（参考資料）
・公益実践活動支援冊子
・三川町史

※　各小中学校には、学級や図書館に置いていただき、子どもたちに気軽に読んでもらえるように配布しています。ご活用ください。（平成２０年４月）